

報 告

◎道路改良會第五回評議員會

定時會員總會

本會評議員會と第五回定時會員總會とは、去る五月十五日東京銀行俱樂部に開かれた、顧問瀧澤子爵を始め道路に熱心なる多數會員の出席に依つて兩會共正規の成立を告げた、水野會長議事を主宰し、長岡濇庶主任理事の大正十二年度事務報告と、(左記報告) 山田經理主任理事の同年度會計報告及大正十三年度歲入出豫算の説明とがあつた、評議員會附議事項に次て同じやうに會員總會附議事項が逐次議了せられた、評議員會附議事項中特別會員推薦竝に理事互選の件總會附議事項中評議員互選の件は、孰れも會長の指名に一任になつて、其の結果は本會機關誌上に報告することに決し、左の通り指名された。

特別會員

内務省 長岡隆一郎君 參謀本部第三部長 陸軍 原 清君
土木局長 村井二郎吉君 第一技術課長 池田圓男君 衆議院議
鐵道省運 輸局長 堀田義次郎君 栃木 縣田邊良忠君 兵庫縣村山喜一郎君
員 堀田義次郎君 栃木 縣田邊良忠君 兵庫縣村山喜一郎君
土木課長 土木課長

評議員

長岡隆一郎君、木原清君、村井二郎吉君、池田圓男君、

理事

長岡隆一郎君 木 原 清君 村井二郎吉君
池田圓男君 佐上信一君 牧 彦 七君

道路改良會大正十二年度事務報告

本期ハ豫定計畫ニ基キテ専ラ事業ノ進捗ヲ期シツ、アリシニ不幸大震火災ニ遭遇シテ其ノ設備ト從來ノ調査物及重要書類ノ大半悉ク灰燼ニ歸シ爲ニ事業執行上少カラス支障ヲ來シタリシモ銳意之カ恢復ニ勉メ漸クニシテ其ノ整備ヲ見ルニ至レリ今其ノ事業ノ概要ヲ報告スルコト左ノ如シ

一、道路改良既定計畫ノ維持ニ關シ建議ノ件

客年九月一日ノ大震火災ハ帝都ヲ始メ關東各地ノ市邑ヲ破壊シ鐵道等ノ交通機關ハ一齊ニ其ノ機能ヲ停止シタルモ獨リ道路ノミハ能ク交通ノ負荷ニ任シ避難者ノ輸送救護用物資ノ配給等ニ至大ノ效果ヲ擧ケ其ノ效用特ニ著シキモノアリ

ハラス政府ハ財政ノ關係ヲ理由トシテ道路改良ニ關シ

計畫ヲ變更セムトシタリ依テ震災後直ニ理事會ヲ開キ其ノ決
議ヲ經テ道路改良ニ關スル既定計畫ノ遂行ニ關シ内閣總理大
臣及内務大臣ニ建議スル所アリタリ而カモ政府ノ容ル、所ト
ナラス右計畫ハ遂ニ變更セラレタリト雖此ノ如キハ帝國路政
ノ爲看過スヘキニアラサルヲ以テ本會ハ建議ノ趣旨ヲ貫徹ス
ヘク今後大ニ努力スル所アラムトス

二、雜誌發行ニ關スル件

雜誌道路ノ改良ハ客年第五卷第一號及第二號ヲ發行シテ之ヲ
頒布シ次テ第三號ヲ刊行セムトスルニ際シ大震災災ニ遭遇シ
テ之ヲ果ス能ハス一時中絶ノ止ムナキニ至リシト雖之カ續刊
ヲ希望スルモノ頗ル多カリシヲ以テ金澤市ニ於テ第三號ヲ刊
行シ爾後東京市ニ於テ第六卷第一號及第二號ヲ印刷スヲ得ル
ルニ至レリ本誌ノ發行ハ道路改良ニ資補スル所少カラサルヲ
以テ益々内容ノ充實ニ勉メ本會會員ノ期待ニ副ムハコトヲ期
ス

三、會員募集ニ關スル件

豫テ道路改良事業促進ノ爲本會趣旨ノ普及ニ勉メタリシニ幸
各地同志ノ贊意ヲ表スルモノ相踵キ一地方支部會員ニシテ多
キハ千百餘名ニ達セルモノアリ今日ニ於ケル總數既ニ二千餘
名ヲ算セルモ尙未タ入會ノ運ニ至ラサルモノ十二府縣ニ及ヒ

是亦地勢同憂ヲ鑑ミヨリテ會員ノ募集ニ勉メツ、アレハ本會
ノ豫定セタル地方會員ヲ得ムコト將ニ近キニアラム
以上ハ今期事務ノ概要ニシテ世ノ耳目ヲ惹クニ値セサルカ如
シト雖事業經營專ラ摯實ヲ旨トシ會員各位ノ援助ニ依テ漸次
目的ノ達成ニ勉メムトス

◎土木主任官招待會

内務省に召集せられた、各地方土木主任官は地方に在つて
本會々務の爲に日常多大の助力を煩して居る方々であるか
ら、此期の上京を幸に其の勞を慰むる爲、五月二十六日丸の
内東京銀行俱樂部に招待した、集る者正木東京、高田神奈川、
勝又愛知、近京都、島大阪、村山兵庫の各府縣土木課長を始
め各縣土木課長、技師、道路主事の各位で總計百數十名、本
會よりは水野會長、堀田副會長、長岡、山田兩理事を始め各
理事幹事等であつた、長岡理事より一場の挨拶をした曰く

本會は是れまで道路に關する色々の事業を計畫し其の那
度諸君を煩はしたが、いづれも熱心な御援助に依つて
著々其の成績を挙げ、最近は又會員募集につき諸君の多
大なる御盡力によつて、今や地方會員數六千を算する盛
況を呈したことは、茲に深く感謝する次第である。右地

方會員の仔細を申しますと、或る地方は壹千餘名の會員を得て、道路熱の頗る昂つて居る所もありますが、未だ全く一人の會員もない地方もあるのであります。

本會は近く二萬の會員を得まして、益々會務の振興を期せんとして居りますから、未だ會員の全くない地方は勿論少數なる地方に於かれても、今後一層御盡力を下され、本會所期の會員數を得るやう、重ねて諸君の御助力を請ふ次第であります。

今回は諸君公務を以て御上京になりまして、色々お忙しい場合にもかゝはらず、斯く多數御出席下さいましたことは、是亦深く謝する次第であります、折角御招き致しましたも、何等の趣向も御座りませんが、別席に於て粗餐を召上りながら、緩々御歡談を盡されんことを望みます、尙本會經理主任山田理事の御話がありますから、暫時御清聴を煩はします。

理事山田英太郎君演説

私は本會のお納戸方をつとめて居ります山田と申します、只今庶務主任の長岡土木局長から、本會の會員の増加といふことに就て、皆様の御盡力を願ひたいといふことを申されま

したが、これは會の經濟の方面から申しまして最もその必要を感じて居りますので、その會計の状況を申述べて皆様の御盡力を願ひたいと思ひます。

大正八年本會創立の當時の豫定では、大いに資金を各方面から蒐めまして、少くとも五ヶ年間に十六七萬圓の費用を投じて、此の會の事業を遂行するといふ計畫であつたのであります、その後財界の變動等に依りまして世の中の事情も大分變化して参りまして豫期の通りの資金を蒐めることも出来なかつたのであります。

即ち設立の當時發起人から齎出しました金額は十萬圓そこ／＼でありまして、十一萬圓に達しなかつたのであります。その他に寄附金の募集等は一厘もございませぬ、發起人限りで得ました十萬餘圓の金を基に致しまして、大概此の頃は本會の一年の經費を一萬五千圓程度でやつて居るのであります、だん／＼と基金を使つて参りまして、目下手許に残つて居ります金が三萬四五千圓といふ、誠に果敢ない經濟をやつて居る次第であります。これを當初十六萬圓を五ヶ年に使ふといふ計畫から見ますと、何もかも思ふに委せず、小規模な事を致して居るのであります。

その際茲に雜誌部といふものが出来まして、これは特別

會計の計算法で今日やつて居るのであります。只今の所で會員總數が元の發起人も加へまして六千餘であります。一少月の會費五十錢平均としますと、僅に三千圓の金を以て一切合財の雜誌の經營をしなければならぬのでございますから、已むを得ず經常會計の方から毎月々々この特別會計に向つて貸金を致しまして、だん／＼と經常會計が難儀を致して居ります。どうぞ斯ういふ算盤合ひであるといふ事を御承知下さいまして、尙ほ此上の御盡力を願ひたいのであります。

既に今日まで大分皆様の御盡力に依りまして、會員も六千人と申しますれば、これは各地方御在官の諸君の御力が無かつたならば、他の會などは一年や二年の間に六千の會員を得るといふことは容易ではありません。既往の皆様の御骨折に對しては深く御禮を申し上げますが、何分賄ひ方の狀況は只今申上げる通りでございます。即ち長岡庶務主任の申されました通り、どうしても二萬人の會員を有するにあらざれば立派にやつて行く方法が立たぬのであります。今六千人のものを一躍二萬人といふやうなことは望んで得べからざる事でありますけれども、どうぞ我べく短い期間に一萬人には達し得るやうに致したい、即ち月に五千圓餘り雜誌部で使ふことが出来るやうになりますと、經常會計も月々幾らかの戻入を

受けまして樂を致します。經常會計は唯雜誌の事ばかりでございませぬで、いろ／＼大きな事を澤山致さねばなりません。ぬ、何分とも私からも皆様の御盡力をお願い申し上げます。今夕は丁度御上京を機として、平生の御慰勞、御禮勞々御參會を願つた所、御繰合せ斯く御打揃ひ御來會下さいまして、是亦併せて御禮を申し上げます。

理事牧彦七君演説

只今山田理事から會計の事に就て皆様に御願を致しましたが、私は一つ雜誌の編輯上に就て御意見を伺つて見たいと思ふ。今までの『道路の改良』は小さい冊子に致しまして、宣傳用に専ら用ひるものであつたのですが、あれを多少道路知識普及の意味を持たせて定期刊行にしたら宜からうといふ事が、あれを少し體裁を改めた理由であります。どうもチョイ／＼耳に這入る所では内容が難かし過ぎて一般の人にわかりにくい、従つて會員が澤山募れないといふことを耳にするのであります。如何のものでありませうか、皆様地方に於て會員を募集される上に於て、又あの雜誌を讀まれた感じの上に於て、若し御意見があるならば此の際伺つて置きたい。吾々仕事に當る者として、どうも道路専門の雜誌と

以上の挨拶に對し埼玉縣土木課長清水徳一君は主任官を代表して左の謝辭を述べた

甚だ憚越ながら私から一言御挨拶を申し上げます。今夕は御多忙中にも拘らず吾々土木課長會議の爲めに上京した者、及び地方に於て道路に關係を有する主事その他屬官までを茲に御招待下さいまして、斯の如き御盛宴を開いて下されたことは、吾々一同の厚く御禮を申上げる次第であります。

然るに先程長岡理事殿、山田理事殿より承りますれば、道路改良會當初の希望に副はざる成績を今日呈して居るから（對は一層盡力して呉れといふお言葉でありまして、實際、全國各府縣會員數表に依つて拜見した所を見ますると、誠にまだ不十分と申しますが、當初御の希望に副はざるやうな結果を數字の上に表はして居りまして、吾々としても誠にこれではならないといふ考を、平素も持つて居りますが、誠にあの表を見て一層その感を深くした次第であります。吾々は及ばずながら出来るだけ幹部の方々の驥尾に附して會員の勧誘を致しまして、幾分でも御期待に副ふやうに盡力したいといふ希望を持つて居ります。併しこれは何分人を相手のことでありまして、十

分の御期待に副はざる成績は出来ませんが、それだけの考は持つて居りますから、出来るだけの努力を致したいと思ひます。簡單ながらこれを以て御挨拶に代へます。

一言居士を呈すべき饒舌家の集りとは聞いて居たが、一向に氣焔を擧げる人もない、御馳走が足りないであらうか、夫れとも會長が内務大臣と言ふ肩を持つ人であるから、遠慮せられたのかと幹事をして焦慮せしめたが、堀田副會長の挨拶があつた。

私は嘗て健康なりし時代に於ては、可なりメートルを上げて諸君のお笑ひを買つたこともあるのでありますが、まだ病後のことでもありますが、今夕は遠慮して居らうと思つて居りましたところ、隣席の長岡君が頻りにやれ〜と何か言ふものですから、別にお話申上げることもないのでありますけれども、いろ〜昔の事も想ひ起し、又今後の事を考へますといふと、何となしに御懇意の皆様方にお會ひした機會であるから、一言述べられるのも敢て差支ないか知らんと思ひまして、茲に立つた次第であります。

本會は申上げる迄もなく我國の道路の現状に刺戟せら

れまして、今から數年前に初めて産聲を揚げたのであります。爾來諸君等の御盡力によつて會務日に隆盛に赴きつゝあるのであります。併ながら當初考へて居りましたやうにその効果を擧げることが出来ませぬので、會つては改良會の基金數十萬圓或は數百萬圓も積んで、大いに此の道路の改良の爲に改良熱の普及宣傳、又實際の改良事業を進める上に於て貢獻したいといふ考を持つて居つたのであります。その後世の中の不景氣につれまして、會の基金は日に少くなつたといふやうな次第で、今日に於てはその方の金を更に大いに増加するといふ事を企てるのは、あまり望みが大きくはないか知らんと思はれるやうな状況であります。むしろ堅實なる會員組織の下に、一面に於ては道路の改良普及を鼓吹すると同時に、他の一面に於ては願くは此の改良會の會員諸君等の御盡瘁に依つて、改良の實を擧げる機運に向はせたいといふやうな、極めて小さい望しか持つて居ることが出来ぬやうな状況に立至つて居るのであります。

而して今日の状況を見まするといふに、先程他の理事よりお話し申されました通り、或る縣に於ては一縣にして一千名以上の會員も出來て居るといふやうな状況である

に拘らず、或る縣に於ては一人の會員も無いといふやうな有様であるのであります。今日は私は會員を大いに増加して欲しいといふ事を諸君に申上けても、別に現職に居る譯でありませぬから支ないと思ひますので、敢て今夕は申上けるのであります。全國の各府縣の會員が一千名なみに皆出來たならば、四、五萬の會員は立どころに出來る譯であります。さうすれば雜誌の方の收入を以てしても、毎年本會の平常行はんとして居る事業は成績を十分に收めて行くことが出來ようと思ふのであります。今會長より親しく諸君にお願をしたのであります。どうか一層の御盡力を煩しまして、先づ一千名内外ぐらゐの標準を置かれて、會員をつくられんことを希望致したいのであります。

併ながら私共今日唯單に改良普及を鼓吹する、宣傳するといふのみを以て甘んずべきものではないことは、固より承知致して居るのであります。今會長ともお話を致したのであります。此の間淺野總一郎氏の如きは、朝寢込に私の所にやつて参りまして、どうも三萬や四萬の會計報告ぐらゐ吾々は聞いたつて仕方がないのだ、どうか大仕掛に道路改良を實行して貰ひたい、それが爲には

吾々自動車を持つて居る者は百圓づつ位いつでも出す。一臺に付て百圓づつ一年に出すとすれば、假に茲に一萬二千圓あるとすれば百二十萬圓、その金を利子に充て、六分の利子で公債を募集しても、二千萬圓の仕事は直ちに出来るのであるといふやうな話でありまして、何とかそれ等の點に於て工夫を凝して貰ひたいといふ、熱心な話があつたのであります。勿論淺野氏に於ては別に道路の法制上の知識は十分でないから、何でも吾々改良會の者が勝手に道路の工事でも何でも出来るやうに考へて居られての話かも知れませぬが、併し他の一面に於てこれは尤もなる話でありまして、何とか一つ吾々も研究をし、實行の出来るやうに工夫して見ようと言つて別れたのであります。どうも今日の表向きの法規に拘束されたやり方のみでは、或は道路の改良といふ事を實行する上に於て十分でない、徹底的に行かぬといふ事もあるかも知れぬと思ふのであります。是等の點も諸君等と今後忌憚なき研究を遂げて意見を交換して、何とか目鼻の附くやうに致したいと思ふ。

私共浪人となつて諸方に参りましていろ／＼各方面の人と會つて見るといふと、どうも道路が悪い爲に非常に

運搬費が掛つて困る。これを縣道に入れて貰ひたいと言ふのだけれども、なか／＼一本しか認めぬとか何とか言うてどうしても入れて呉れぬ、一體斯ういふ杓子定規のやり方があるものですかといふやうな苦情を能く聞かされたのであります。自分等嘗て道路法の制定その他道路法に關係しての法規の立案に従事した點からして、甚だその言葉を聽いて心苦しくも感じたのであります。つら／＼考へて見ますといふと、これ等の點も今後やはりよほど改良を加へ、刷新を加へる必要がありはせぬか。單に現行の法規を金科玉條として、これを墨守するのみが吾々道路改良の仕事に従事する者の能事ではないのではなからうかといふ事を、痛切に感じた次第であります。これ等の點に就ては諸君等に於て、地方の實際に當つて居られる經驗よりして割出される知識を以て、土木局長或は内務大臣等を刺戟せられて、實際に道路改良の仕事が出来るといふに御奮發を願ひたいと思ふ。別に申上ける事もありませぬが久し振に皆様にお目に懸つて一言駄辯を弄した次第であります。(拍手)

メートルを擧げよとの撻撻であつたので、雄辯家を以て主任官會議で有名な愛知縣土木課長勝又愛治郎君が起つて、一

言述ぶる所があつた曰く

私は聊か自分の思ふ所を申述べたいと思ひます。私の道路改良會に就きましたの感想は、如何にもどうも淋しい感じが起るのであります。曩に郡制廢止の結果郡道を縣道に編入するといふ時に方りまして、愛知縣の縣民は非常に道路といふ事に熱中致しまして、その當時縣道の編入は凡そどの程度になるかといふやうな事を、むしろ私共が案を作る前に非常に騒いで居つたのであります。そこで私共は自分等の信ずる所に於きまして三案を作つた、それは現在の郡道が六百餘里ありましたが、先づその六分案、七分案、八分案と斯う三案を作りました。その當時の知事は先づ中の案で七分案を出して見ようといふので、縣會に七分案を提出しました。所が縣會は、こんな少い編入の案は宜しくない、是非とも全部入れて貰ひたいといふ、それは到底いかぬ事である、固より道路法に依つて標準もある、又いろいろ地形にも依つてそれ／＼選擇をしなければならぬ、さう無謀な事を言はれても困る、縣會に於ても適當の答申をして貰はなければならぬといふ事を説明しました。所が原案は原案と致しまして、縣會は更に追加の希望を出したのであります。そ

こで知事は、縣會の模様が斯の如く多數の道路を縣道にすることを希望して居る以上は、モウ少し加へてやらう、それに就ては彼等が追加しようとする所の線路を出して居るから、それを見て更に八分案を作れと言はれました。それに依つて吾々は案を作りまして、之を内務省に提出致しまして内務省の御査定を受けることになりました。所が縣民は非常に内務省の御査定に就て心配して、非常な僻地の縣民も出て参りまして、さうして吾々に内務省の査定の様を尋ねるといふやうな有様であつたのであります。

斯の如き場合に於きまして道路改良會の會員の募集をやりかけて居りました、所がなか／＼入會希望者が多いのです、中には巡查なども入會した者もある、學校教員なども這入つた者もありました、それで其の数が千三百幾らかに達したのであります。併ながらこれは直ちに木部の方へ御報告をしても、イザ會費の徴收に方つて頓挫するやうでは困るから、暫く模様を見なければならぬと思ひまして差控へて居りました。所か此の縣道編入の事が終りまして以來、火が消えたやうになつてしまつた、進んで改良會に入會を申込んだ事に就て、何等尋ねる者

も無い、又私共の依頼致しました郡役所なり或は土木工區なりに照會を致して見ますと、殆ど今日は彙に入會の申込をしたのを後悔して居るやうな有様である、斯ういふ事を聞きました。それで近頃更に確實性を認められる會員を更に聞かせて居るのでありますが、大抵五六百位までは行くだらうといふ考を持つて居ります。

それで私は近來しばしば此の事を考へて居るのであります、道路改良會といふものは其の目的とする所何在るかといふことを考へて見た。所が趣意書、會則などを近頃配布を受けましたが、之を見ますと先づ宣傳が主である、道路の改良發達を圖るが爲めに廣く宣傳をするといふことが主たる事業のやうであります。その爲に雜誌を發行するとかいふやうな事もあります。けれども、更に望を將來に囑して、大いにその希望に向つて進んで行くといふ、人の氣をそゝり上げるやうな事柄が越意書の中に見えて居らぬ。これではどうも吾々勧誘するに就て殆ど方法に苦しむのであります。一體物を見せなければ寄つて來ぬのでありますが、その見せるものが無い、宣傳といふ事だけならば今日になつては恐らく何れの縣に於きまして、道路の改良をせねばならぬことは縣民

一般に存じて居る。愛知縣などに於きましても斯ういふ事を聞きまして、私は大いに感じて居る、昔は醫者や藥屋の無い所に住むなど言つたものでありますが、今は自動車の通らぬ所に住むな、斯ういふ事を愛知縣あたりで言つて居る。どんな部落でも自動車が來んければ病人は助からぬといふ事を言つて居る、その位道路に就ては非常に熱望して居る有様であります。

然るは翻つて港灣協會を見ますとなか／＼盛大なものである、第一回の總會を先立つて神戸市に開かれたやうであります、なか／＼盛大なものであります、隨分遠方から皆參會して居られる、或は北海道、或は朝鮮滿洲、或は臺灣、各方面から集まつて居られる。これは何故斯う盛大にあるかと思ひますと、その目的が宜しい、主義綱領に於て大いに人の望みをそゝつて居る點がある。それは何であるかといふと、今非常に海運業者、船舶業者地がこの港灣行政の不統一に苦しんで居る、それから各地方に於ては第二種港灣、第三港灣に就て非常に渴望して居る。斯ういふ時代であるから、それを此の港灣協會を利用して何とか目的を達しなければならぬといふ所の望みを持つて居る會でありますから、港灣協會は實に活

氣のある會である、皆よろこんで總會へ来てさうして大なる希望を囑して歸るといふやうな風に見えます。

所が道路改良會は何の催しも一回も無かつた、それから今何を以て彼等をそゝり立てるかといふ事が一つも見えないと思ふ、これは私は甚だ遺憾に思ふのであります。今茲に會員を募つて五十錢の會費を納めて貰つたところが、五十錢に酬いるに何を以てするか、たゞ雜誌をやつて之れを讀んで呉れといふに過ぎないならば、道路改良會といふものは甚だ詰らぬ事業を爲すものであると、斯う私共は思はれるのであります。それで此の道路改良會の事業に就ては、何等か更に光明を見出す工夫をされなければならぬではないかといふ事を、自分は深く感じて居るのであります。

それから港灣協會などではなか／＼會員の募集方に就て、本部に於かれても上手にやつて居られる。モウ會員の申込を報告したかせぬ内に、申込以上の雜誌を直ぐ送つて来る、さうして之を預けて呉れといふやうにして寄越される、それだからそれを皆に廻す、サア是は斯ういふ良い事が書いてある、斯ういふ事が書いてあるといふので、皆よろこんで、この機會に自分等もこれに入會し

て、此の事を港灣協會に依つて達成するやうに進んで行かなければならぬ、斯ういふ感じを起させるのであります。然るに道路改良會では、雜誌を早くよこして呉れと言つてもなか／＼よこさぬ、斯ういふ下手なやり方ではいかぬと思ひます。少しは損をしても宜いから、申込の大體の数は私共にお尋ねになればわかりますから、その部數のあらましを見込んで早く雜誌を廻して戴けば、私共の方ではそれを分配して、一つは勧誘の手引にもすることが出来るのであります。

斯ういふやうな事も考へて居るのでありますが、要するに此の道路改良會なるものが既に生れた以上、此の儘中途にして夭折させたくないと思ひますから、一言自分の所感を申上げて、會の當局の方々の御考慮を煩はしたいと思ふ次第であります。(拍手)

述べられた所感は必ずしも當らないとは言へない、否な當つて居る點が多い、此に注意を受けた、道路改良會の幹事も今少し覺醒して、我國道路の改良の爲に盡せば可いのであると言つてた人もある、港灣協會と同じ内務省の室に居て、兩者の勢力が此様に逕庭あるのは常務幹事が振はないからであると言つてた人もある、御注意ありがたく拜聴した、今後は

緊禪一番しようと思つてるとき、再び談話室に歡談湧くの場
面が展開され、來賓の全く影を没した頃は、都大路の人影も
疎であつた。(K T)

○東北地方道路改良宣傳旅行

本會は道路の改良を促進する目的を以て、曩に東海山陽兩
國道の改良を宣傳し、之が爲各地の道路改良熱を著しく旺盛
ならしめ、天下の難路と稱せられ、車馬の交通すら出来な
かつた箱根峠やら鈴鹿峠が今日の如く自動車の通行するやうに

改修せられ、天龍、大井、富士大川の架橋やら計畫せらるゝ
に至つたのは全く本會宣傳の賜である、今回は更に手を東北
地方に伸ばし、同地方道路の改良を促進する爲に左の要領に
依り講演會を開催することとした、之に依る効果は未知數で
あるが、東北地方の人士が此計畫に参加して其の意見を受理
し實行するや否やが地方人士の地方開發に努力する確心の試
験である、因に講演會と分離して活動寫眞を映寫するが、講
演會にはなるべく多數の有識者を集めて貰ひたい。

東北地方道路改良宣傳旅行要領

月 日	閉 催 地 會 場	講演時間	活動寫眞映寫時間	講 演 者 氏 名
八月一日	浦 和 縣 會 議 事 堂 熊 谷 高 等 女 學 校	自午前十時半 至午後〇時半	自午後七時四十分 至午後十時	願 濫 澤 榮 一 郎 常 務 理 事 長 岡 隆 正 理 務 理 事 中 川 正 左
八月二日	宇 都 宮 縣 會 議 事 堂	自午後六時 至午後八時	自午後八時三十分 至午後十時	願 濫 澤 榮 一 郎 常 務 理 事 長 岡 隆 正 理 務 理 事 中 川 正 左
八月三日	郡 山 第 三 小 學 校	同	同	願 濫 澤 榮 一 郎 常 務 理 事 長 岡 隆 正 理 務 理 事 中 川 正 左 復 興 局 長 官 直 木 倫 太郎

八月十一日	八月十日	八月八日	八月七日	八月六日	八月五日	八月
山形	秋田	函館	青森	盛岡	仙臺	福島
縣會議事堂	縣紀念會館	函館市公會堂	青森劇場	岩手縣商品陳列所	縣會議事堂	縣公會堂
同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同
會理事 事長 佐上 言一郎	會理事 事長 佐上 言一郎	工學博 事士 佐上 言一郎	副會 博事 竹内 季一	副會 博事 竹内 季一	副會 局長 直木 倫太郎	常務理 局長 直木 倫太郎
水野 幹一	水野 幹一	牧内 季一	堀内 季一	堀内 季一	堀田 倫太郎	比田 孝太郎
岡隆 一郎	岡隆 一郎	七	七	七	七	七

◎佐上理事の榮進

本會理事の佐上信一氏は、例の萬年道路課長の綽名を附けられた程、左様に道路に關する行政に付きても熱心家であ

る、曩に内務省參事官兼内務大臣秘書官として、道路課長職を轉せられたが、其の文書課長として職務を行ふに付いて

も、道路事務に付いては、他の事務よりは一層趣味を以て觀たと言ふ位である、其の佐上氏が先般内務省神社局長兼造神

宮副使、明治神宮造營局長と言ふ長い肩書の榮職に轉ぜられた、敬神思想の向上とか持を附けた宮司連が八ヶ間敷言つて居るときであるから、さぞ多忙なことであらうと信ずるか、道路行政を切り廻した、其の手腕を以て神社行政に當たられむことを希望し御榮進を祝す。(K. T. 生)

◎鐵道踏切の安全

鐵道が道路を踏切り、道路が鐵道を踏切る、何れにしても鐵道踏切であるが、此踏切通過の爲に道路交通に妨げなからず恐怖を感ずるのであつて、交通事故も尠くない、此危險を防止するが爲、道路構造の方面より又交通の方面より各種の規定を定めて居る、這般の土木主任官會議に諮問された、道路構造に關す細則に於ても、道路が鐵道又は新設軌道と平面交又を爲す場合に在りては其の踏切の前後の各六十メートル以上の直線部を設け踏切前後長三十メートル以上の區間は五分一より緩な勾配を附すること、した外踏切箇所附近の道路幅員に就いても其の前後長二十メートル以上の區間は前後道路の幅員に二メートルを加へたものと爲すべきことにして居る、其の外鐵道踏切の爲に道路を占用する場合に在つては鐵道と路面とを高低なからしめ又其の踏切の斜角は四十五度よ

り緩ならしむる方針の下に處置せられ其の制限に反する占用に付いては監督官廳の認可を受けしむることとして、構造上より交通上の危險を防止することに力めて居る。

交通の見地よりは道路取締令に於て、鐵道又は軌道の踏切を通過せむとするときは、汽車、電車等の接近せざることを確めた上通過することを注意し、踏切の前後八十メートル乃至百四十メートルの地點には踏切の存在することを知らしむべき道路警戒標を設置すべきことを命令し危險防止を圖つて居るが、米國邊でも此問題に關しては當路者を惱まして居る。最近最も詳細にして周到を極めたるものは New York

City 鐵道の保安部長 Charles E. Hill 氏が本年二月十二日 Ann Arbor に開催の公道路學 Michigan 會議に於て試みた講演である、氏の講演は事故問題の汎論より説き起し、毎年合衆國に於て事故より生ずる死者の數は七六、〇〇〇人、其の中二十五パーセントは十五年以下の小兒である事實を挙げた、世界大戰の十九箇月間に戦死した陸海軍人及海員の總數は五七、〇〇〇人に上り、負傷者の數は一、二六、〇〇〇人に達したが、然し大戰終局後の十九箇月間に日常の平和なる職業の爲に死亡したる者の數は五七、〇〇〇人の二倍の多きに及んで居る、合衆國に於ける公道踏切の現在數は二、五、三

六二箇所である、而して本年未迄に免許を受ける自動車の数は無慮一五、〇〇〇、〇〇〇萬輛に達すべく、然るときは既往の記録より推して本年の踏切に於ける死者の数は二、五〇〇人に上り、又負傷者の数は六、五〇〇人に達するであらう。

田二氏は自動車の危険に對する救済策如何の問題に就き論ずるに當り鐵道と地方官廳と、自動車所有者との連帶責任と云ふことを特に重要視した、氏は米國鐵道協會の施設した所を述べた、米國鐵道協會の承認した標準信號は電氣閃光で、即ち赤色燈二箇を二十八吋の間隔を置き相並べて地上七呎の高の標柱の上に裝置するのである、New York Central 鐵道では此鐵道協會所定の標準信號を實行し得る箇所には成るべく設備することゝして居る。

田三氏は、事故の多くは運轉手の酩酊に起因するものと謂ふことが出来る、是れ即ち米國の法律に大なる缺點あることを示すものであると云つて居るが、氏は其の救済策としては唯免許試験を嚴重にすることを擧げたに過ぎない、氏は又既往の觀察より判斷すれば一の踏切を通過する運轉手の約二十五パーセントは相當の注意を拂はず、又五パーセントは非常に不注意である、果して五パーセントの運轉手が不注意であるとすれば今日米國の運轉手七五〇、〇〇〇人が不注意者

で、彼等は悉く列車に危害を及ぼす可能性を有するものであるとし、又總ての自動車が防備なき踏切を通過せんとするに當りては一先づ停車するを要する法律を設くることは深く考慮を要するものと信じて居る。

之を要するに 田三氏は公道管理當局者は踏切防護の統一に關し、鐵道と協力し適當な取締規則の勵行に努め、自動車運轉手に適せざる者には免許を與へぬことゝし、且つ公平なる立場から踏切に於ける事故防止問題の全體を廣く研究することを希望した。

該講演筆記は印刷に附せられ二十五頁の小冊子となり居れば、同氏へ申込み送付されることゝ思ふ、同氏の事務所は New York 市 LaKington Avenue 466 番にある。(K.T.S.)

我選手にとりて困難なコース

世界オリンピック大會だより

我國代表のマラソン選手である金栗、田代兩君が大會場に於けるコースを檢分した時の報道によると道は平坦で極く僅かの坂がある丈けであるが全コースの三分の二はアスファルトで他は石敷であるため常に土砂道に馴れた我選手にとつては決して好いコースとは云へぬ。金栗君は試みに十一キロメートル程、けたがアスファルトはまだしも石敷の所では足を痛めはせぬかと心配してゐる、今後コースに對する廢物其の他の研究を積み校金を期する筈であると

讀者の聲

◎私は本誌の第一號から毎號を讀破して居るものでありますが、毎號登載してある記事は、何れも名論卓説で充満されて結構ではあるが、現代式の道路に關する事で、赤い酒や青い酒やらを飲む女の住んで居るとやら言ふ、都會の道路改良には至極適當ではあるが、我々の如き草深い片田舎に生活して居る者が日常使用して居る道路の改良とは餘程縁の遠いことばかりである、極言すれば都會集会的で農村閉却主義である、モ一少し田舎道路を如何にして改良すべきや、澤山の原料が推積して居る自然の富源を開發する爲に、最小限度の費用で、輕便に道路が築造出来る様な方法研究も發表して我々にも參考となる資料を技術方面と言はず事務方面に對しても提供して貰いたい、然らずむば退會したい様な氣にもなる（兵庫縣山陰の海坊主）

◎吾人は本誌に於ける内外知識の紹介に依り幾多技術上の糧を得候事に對し深き感謝を捧げ本會員たることを無上の喜びとする者に有之候されど吾人は實際經驗に依り屢繰り返されたる失敗の上に築き上げられたる知識を更に貴く感ずる者に有之候此の意味に於て小生は本誌上に讀者の反映の甚乏しきを聊か憾とする者に有之讀者が忠實に自己の苦戰を公にするは勿論編者に於ては此種の稿を募り大に實際指導を賜らむことを切望する次第に在之候（中國浪人）

◎肅啓、吾等の敬愛する雜誌道路の改良研究欄に於て「北米合衆國に

於ける三大道路試験」に就て、第六卷第一號以降執筆して居られる「内務技師鹿城生」、「鹿城生」、「幹事内務技師牧野雅樂之丞」とあるは同一の先生でありますか、若し然るとせば編輯形式上一一定のお名前になさつた方が如何ですか、敢て編輯長足下に寸書を呈します。終に臨小時下梅雨の候我國路政の爲益々御筆健を祈る（道路大人）

◎「思ふこと云はれば腹ふくる、習ひ」と昔の人も申して居ります。其の如き生來太つ腹の人間は少し位は無遠慮に云はせて頂かれればともなりませぬ、抑々物には陰陽表裏があります、男ばかりでは世が立たぬ、男でも骨つ節の強いばかりでは誰も相手にして呉れませぬ胸の奥には温い柔いところが少しはなくては、此の雜誌も榮養價に富んで居ることは明瞭であるが何だか舌觸りが悪くて味氣なく嚙みこなすまでに飽きて來る丁度老人に燒き鯛の感がありますいませうばかりでも味の素でもお砂糖でも投り込んで頂いたらどんなものでせう、（滿腹老人）

◎僕は讀者の一人である殊に第六卷第一號から毎號附録として貴會刊行の道路法令集は非常に結構です、夫れで右の法令集が終つたと道路法の各條に付ての説明書を出して又掲載して貰いたい。（S生）

◎人間は一日も道路なくして生活する事は出来ない、難破船から一人生き残つて命がらがら絶海の無人島に泳ぎついたロビンソンクルーソーでも掘立小屋と魚の集る海岸の岩との間に草木を切はらつて細い小徑を作たではないか、しかし人は空氣を呼吸して生きてゐながら

空氣の難有味を知らずにあると同じやうに毎日毎日道路を利用してゐながら吾々は案外に道路の有難味——六ヶ敷く言へば道路の國民生活の各種の部面に對する氣能に氣づかずにあるものである、只雨の降る日や風の吹く日に東京の道を歩いて泥濘脚を没して踏む所を知らずとか黄塵萬丈寸前暗黒といつたような状態に出遭ふた時に始めて徒らに腹立しさを感じ當局者の無爲無能を罵り度くなる位のものである、私も亦全くさういふ一人であつた、ところが最近道路に關する仕事の一部にたづさはる身となつて失禮ながら今まで「其存在さへも知らなかつた」道路改良會の機關雜誌たる本誌を拜讀するの光榮を有することとなつた。そのお陰で此頃道路が吾々の社會生活國家生活の上に如何なる機能をも有してゐるか、従つてこれが改良の必要が如何に切實であるかといふようなことをつくづくと教へられた、私に此未知の世界を開いてくれた本誌に對し私は萬際の感謝を捧げて今では之を材料にして會ふ人毎に道路の機能を説き其改良の必要を宣傳するのを樂にしてゐる、かくの本誌はたしかに私に對しては其宣傳機關雜誌たる使命を充分に果したものであるが果して廣く一般社會に對しても亦充分にその使命を果してゐるであらうか。私にとつて今まで「其存在さへも知られなかつた」道路改良會及其機關雜誌たる本誌は私の會つて話をした凡ての人にとつても亦「其存在さへも知られなかつた」ものであつて私はあまりに道路に關する彼等の理解の少かつたのに驚いた——最近まで私もその一人であつたが——そして彼

等は必ずしも常識の無い人選ばかりではないから「知られない責任を直ちに」知らなかつた」彼等の寡聞に歸することは出来ぬと思ふ、彼等の「知らなかつた」責任は寧ろ彼等に己の存在を「知らしめ得ざりし者」の責に歸すべきではなからうか、道路改良計劃の實行が道路改良を必要なりとする力強い輿論の後援に俟たなければならぬ以上道路改良會は先づ己の存在位は知らぬ人のないやうにぐつとくだけて一般人士を相手とする大宣傳をして貰ひたい、道路改良促進を目的とする道路改良會に「街頭に出でよ」などと申し上げるのは頗るおこがましい言かも知れぬが、(論愚生)

◎每號お歴々方の御言説は、道路を捧へる方々に取つては頼母しい指針に違ひありませんが、一般の讀者の頭にピン／＼と響くやうな突きつめたお話がまだ出ないと思ひますが如何でせう。今までのものは、何れも雲の上の様子を模索するやうで、隔靴搔痒、権らなくてはなりません。本誌發行の御趣旨が、道路事務の取扱者、技術者への機關雜誌たるに在るなれば一言もありませぬけれども、全國各方面の人人を會員として普遍せられて居る以上、讀者萬人向きの記事をお組合せを願ひたいと思ひます。「道路の改良」と言うことは、道を造る人と利用する人との二つの力が協働されて初めて所期の目的を達せられるものと思ひますが如何？ 私たちは、道路の改良と言うことに就て、何うしたら良いかを萬人が成程と首肯するやうな記事を掲載して頂きたいと思ひます。(十八公)

叙任及辭令(五月)

○五月三日

任群馬縣技師

岡山縣技師

峰 村 國 吉

叙高等官六等

土木技師 峰 村 國 吉

群馬縣土木技師ニ補ス

九級俸下賜

年俸四百圓下賜

陞叙高等官五等

和歌山縣技師 間 崎 則 實

○五月六日

任大分縣技師

兵庫縣技師 青 木 治 助

叙高等官四等

大分縣技師 青 木 治 助

四級俸下賜

道路技師兼土木技師 青 木 治 助

本職並兼職ヲ免ス

○五月七日

道路技師ニ任ス

尾 崎 義 一

高等官七等ヲ以テ待遇セラル

道路技師 尾 崎 義 一

東京府道路技師ニ補ス
九級俸下賜

東京府技師 竹 村 全 之

(各 通)

三重縣技師 後 藤 季 總

福島縣技師 大 石 巖

山口縣技師 小 畑 英 五 郎

陞叙高等官六等

道路技師兼土木技師 小 島 達 太 郎

土木技師兼道路技師ニ任ス

土木技師兼道路技師 小 島 達 太 郎

東京府土木技師兼道路技師ニ補ス

道路技師兼土木技師 齋 藤 英 夫

陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル

道路技師 石 川 兼 吉

土木技師 黒 田 莊 治 郎

道路技師兼土木技師 年 光 十 一

道路技師兼土木技師 小 山 清 孝

道路技師 足 立 藤 一

叙任辭令

(各 通) 道路技師兼土木技師 市 江 良 雄

土木技師 藤 卷 平 作

土木技師兼道路技師 間 崎 則 質

道路技師兼土木技師 牧 野 野 潔

土木技師兼道路技師 星 野 文 雄

道路主事 岡 田 正 治

同 大 橋 缸 松

陞シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル

土木技師兼道路技師 神 志 那 碩 雄

同 武 田 省 吾

〇五月十日 陞シテ高等官七等ヲ以テ待遇セラル(以上五月内閣)

道路主事 足 立 藤 一

年俸六十圓下賜(五月十日 岐阜縣)

〇五月十三日

道路主事ニ任ス 兵庫縣道路書 神 戶 元 次 郎

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 内務省)

道路主事 神 戶 元 次 郎

兵庫縣道路主事ニ補ス(五月十三日 内務省)

九級俸下賜(五月十三日 兵庫縣)

道路主事ニ任ス 吉 本 義 久

高等官八等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 内務省)

道路主事 吉 本 義 久

高知縣道路主事ニ補ス(五月十三日 内務省)

(各 通) 赤 須 通 幾

道路技師ニ任ス 瀧 田 昇 平

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 内務省)

道路技師 赤 須 通 幾

(各 通) 瀧 田 昇 平

同 瀧 田 昇 平

北海道廳道路技師ニ補ス(五月十三日 内務省)

年俸三百圓下賜(以上五月十三日 北海道)

埼玉縣土木技師兼道路技師 島 崎 傳 治

(各 通) 名 越 次 郎

土木技師ニ任ス

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 内務省)

土木技師 島 崎 傳 治

埼玉縣土木技師ニ補ス(五月十三日 内務省)

土木技師 名 越 次 郎

本職並兼職ヲ免ス(五月十五日 關)

北海道廳土木技師ニ補ス(五月十三日 內務省)

福岡縣技師 灘 江 武

年俸三百圓下賜(五月十三日 北海道)

土地收用法第三十八條第二項ニ依リ福岡縣
收用審査會委員ヲ命ス(五月十五日 內務省)

土木技師ニ任ス 靜岡縣道路技師 稻葉勝太郎
手兼土木技師

道路主事 高 澤 義 智

高等官八等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 關)

叙從七位(五月十五日 內務省)

土木技師 稻葉勝太郎

○五月十六日

靜岡縣土木道師ニ補ス(五月十三日 內務省)

土木技師兼技師 井 口 鹿 象

高等官五等ヲ以テ待遇セラル(五月十三日 關)

陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル

道路技師兼土木技師 松 浦 角 太 郎

③ 五月十四日

土木技師 島 崎 傳 治

(各通)

同 稻葉勝太郎

同 同 山 口 鶴 藏

願ニ依リ本職ヲ免ス(五月十四日 關)

道路技師 進 藤 政

④ 五月十五日

任德島縣技師 神奈川縣技師 中 村 孫 一

陞シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル
土木技師兼道路技師 杉 山 鏡 介

叙高等官四等(五月十五日 關)

陞シテ高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月十六日 關)

德島縣技師 中 村 孫 一

○五月十七日

五級俸下賜(五月十五日 內務省)

埼玉縣道路技師 手兼土木技師 平 尾 鹿 之 助

土木技師兼道路技師 中 村 孫 一

道路技師兼土木技師ニ任ス

叙 任 辭 令

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月十七日 關)

九級俸下賜(五月二十一日 神奈川縣)

道路技師兼土木道師 平尾 鹿之助

〇五月二十四日

鳥取縣土木技師 後藤 安之

埼玉縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月十七日 內務省)

道路技師兼土木技師ニ任ス

鳥取縣土木技師 手兼道路技師 後藤 安之

十一級俸下賜(五月十七日 埼玉縣)

山口縣技師 城崎 千駿

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月二十四日 內務省)

道路技師兼土木技師 後藤 安之

年俸五百圓下賜(五月十七日 內務省)

〇五月二十一日

鳥取縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月二十四日 內務省)

〇五月二十一日

堀正 義

廣島縣土木技師 太田 秋

道路技師兼土木技師ニ任ス

高等官六等ヲ以テ待遇セラル(五月二十一日 內務省)

道路技師兼土木技師 堀正 義

道路技師兼土木技師ニ任ス

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月二十一日 內務省)

神奈川縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月二十一日 內務省)

高等官八等ヲ以テ待遇セラル(五月二十四日 內務省)

遠藤 寅二

八級俸下賜(五月二十一日 神奈川縣)

廣島縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月二十四日 內務省)

道路技師兼土木技師 太田 秋

道路技師兼土木技師ニ任ス

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月二十一日 內務省)

道路技師兼土木技師 田上 憲

(各通)

遠藤 寅二

道路技師 田上 憲

(各通)

遠藤 寅二

道路技師 田上 憲

高等官七等ヲ以テ待遇セラル(五月二十一日 內務省)

道路技師兼土木技師 遠藤 寅二

願ニ依リ本職ヲ免ス(五月二十四日 內務省)

道路技師兼土木技師ニ任ス

神奈川縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月二十一日 內務省)

願ニ依リ本職ヲ免ス(五月二十四日 內務省)

(各通)

同

同

(各通)

同

同

神奈川縣道路技師兼土木技師ニ補ス(五月二十一日 內務省)

同

同